

活動報告

神戸リカバリー研究会シンポジウム

三戸呂 克美

去る、2017年5月13日（土）、神戸市中央区にある兵庫県福祉センターで開催された。当日は小雨が降り参加者の数も大きく期待できる状況では無かったにも拘らず、約60名の参加があった。

参加者は、弁護士、当事者、ご家族、医療関係（OT, PT, ST, Ns）、社会福祉関係（社会福祉士、介護福祉士、ヘルパー）、一般企業関係、大学・専門学校関係（教員、学生）である。

代表の岡村さんの趣旨説明に続き、シンポジストとして以下の皆さんが発表された。

- 重度後遺障害者にとっての自宅復帰の難しさ … 兵庫頸髄損傷者連絡会 宮野秀樹 氏
- 社会保障制度という名のジャングルはどう抜けていくのか … 社会福祉士 岡村恵子 氏
- 人生回復の可能性～絶望から希望へ～ … 弁護士 渡部吉泰 氏
- 自立生活訓練センターで見てきた人生のリカバリー … 作業療法士 本多伸行 氏



交通事故や労働災害などで、重度の後遺障害を負った方は、自分の人生をどう取り戻し、どう作り直すのかという課題に直面する。私たちはそれを「人生のリカバリー(人生の復活)」と呼んでいる。

人生のリカバリーを助けてくれるのは、様々な社会保障制度である。ただし、**社会福祉制度は非常に複雑に成り立っていて、まるでジャングルだ。**ジャングルの全体像をしっかりと把握できる専門家は、残念ながらどこにもいない。我々はそのどこにもいない、いや、いるかもしれないが我々はその人を探すのではなく、現在まだ無い仕組みを作り、誰もが参加(相談者として、また専門の知識を持つ支援者として)出来るような組織を作ろうとしている。

シンポジウムは、リカバリーをしたくてもどうすれば、という人たちと、支援したいがどうすれば、という人たちがお互いを理解し知り合うことから始まる一歩になればという趣旨で開催された。

第1回であり大きな成果は期待できないと思っていたが、質問される人は多く、質問内容も深く直面されている現状がひしひしと伝わるものを感じた。シンポジウムで答えを持って帰りたいと思われたのかもしれない。

(以上、開催資料より抜粋)